

平成28年7月14日
(資料提供)

(事務担当)
所属名：農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部
病虫害防除室
直通：257-6972

平成28年度病虫害発生予報第4号について

今後、発生が予想される、水稲、大豆、果樹、野菜・花きの病虫害の発生時期や発生量、防除上の注意事項などを掲載する。

1 予報期間 7月中旬～8月上旬

2 予報内容

(1) 水稲

斑点米カメムシ類の発生は多と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。

【病虫害発生予察注意報第2号（平成28年7月14日付）参照】

穂いもちの発生はやや多と予想される。出穂前後の防除は必ず実施すること。また、葉いもちの発生地域では、出穂前後の防除後も注意深くほ場を観察し、さらに進展が見られるようであれば追加防除を実施する。

紋枯病の発生はやや多と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

セジロウカ、コブノメイガの発生はやや多と予想される。今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

ツマグロヨコバイの発生は多と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

(2) 大豆

ウコンノメイガの発生はやや多と予想される。7月6半旬に1茎あたり葉巻数が6個を超えた場合、直ちに防除する。

(3) 果樹

カメムシ類の発生は多と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

(4) 野菜・花き（さつまいも、やまのいもを含む）

軟腐病の発生はやや多と予想される。作業中は作物を傷つけないように注意するとともに、害虫防除を徹底する。

アブラムシ類、アザミウマ類の発生は多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガの発生は多と予想される。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

コガネムシ類の発生はやや多と予想される。防除適期は7月下旬から8月上旬である。

※病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。